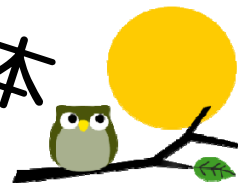




# 図書館員が選ぶおすすめの本

～高学年向け（小5,6）～



## 「鉢かづき 日本の物語絵本6」

あまんきみこ // 文 狩野富貴子 // 絵 ポプラ社

病(やまい)のところに付き、いのちの終わりをさとった母君(ははぎみ)は、姫(ひめ)に大きな鉢(はち)をかぶせました。

母君がなくなったあと、父君(ちちぎみ)から家を追い出されてしまった鉢かづき姫は、川に身をなげてしまいますが、鉢がうき、死ぬことは出来ませんでした。そんな鉢かづきの運命は…。

## 「紙のむすめ」

ナタリー・ベルハッセン // 文 ナオミ・シャピラ // 絵 もたいなつう // 訳 光村教育図書

白い紙でできたちいさな家には、白い紙からうまれたむすめがひとりすんでいました。あるあさ、おおきな紙がとんできて、むすめはその紙から、おおきな気球や帆(ほ)かけぶね、レースかざりのドレスなどをつくりだします。

しかし、楽しさを話し合える人がいなくて…。  
細やかな美しい切り絵の絵本です。



## 「お米ができるまで」

岩貞るみこ // 作 武田美穂 // 絵 講談社

新潟県(にいがたけん)魚沼市(うおぬまし)の山の中にある田んぼで米作りにはげむ、お米農家に密着(みっちゃく)取材！

わたしたちの「おいしい！」をささえるお米作りには、愛と工夫がたくさんつまっていました。毎日食べているのに、意外と知らないお米作りについてよくわかる1冊(さつ)です。

## 「読書マラソン、チャンピオンはだれ？」

クラウディア・ミルズ // 作 若林千鶴 // 訳 堀川理万子 // 絵 文溪堂

小学校三年生のルーシーのいちばんの楽しみは、本を読むことです。ある日、学校で読書マラソンが開催(かいさい)されることになりました。しかも、校長先生は全校生の読書数が二千冊を超えたら自慢(じまん)のひげをそりおとすことをみんなに約束(やくそく)します。

ルーシーは、クラスのチャンピオンを目指しますが…。



※対象年齢は目安です。

※裏面もごらんください。



那須塩原市西那須野図書館





# 図書館員が選ぶおすすめの本



～高学年向け（小5,6）～

## 「ぼくが一番望むこと」

マリー・ブラッドビー // 文 クリス・K・スーンピート // 絵



まだ星が出ているくらい早い時間から、働いている男の子がいました。その男の子の望みは、字が読めるようになることでした。そんな男の子に、ママが一冊(さつ)の本を手わたします。

## 「ながいながい旅 エストニアからのがれた少女」

イロン・ヴィークランド // 絵 ローセ・ラーゲルクラント // 文 石井登志子 // 訳 岩波書店



いつも犬といっしょの女の子がいました。ある日、戦争が始まると、安全な田舎(いなか)のおばあちゃんのところへ行くことになり、汽車に乗せられました。ここから、女の子のながい、ながい旅がはじまります。

## 「遠野物語」

柳田國男 // 原作 柏葉幸子 // 編 田中六大 // 絵 借成



「カッパ」「ザシキワラシ」「オシラサマ」…。岩手県の遠野(とおの)という地域(ちいき)で代々言い伝えられてきた不思議なお話。赤いカッパがナビゲーターとなって、語ってくれます。

## 「黄砂にいでむ 緑の高原をめざして」

高橋秀雄 // 著 新日本出版社



中国の黄土(こうど)高原は砂漠(さばく)化(か)がすすみ、黄砂(こうさ)を発生(はっせい)させていました。その事態を改善(かいぜん)しようといんだのは、日本人の“雑草(ざくそう)おじさん”でした。“雑草(ざくそう)おじさん”の情熱(じやうねつ)が伝わ(たづな)ってきます。

## 「ジオパークへ行こう！

火山(かざん)や恐竜(きょうりゆう)にあえる旅(たび)

林信太郎 // 著 川野郁代 // 絵 小峰書店



「ジオパーク」は、ほんものの大地(だいち)を見て、生(い)きている地球(ちきゅう)を感じる(かんじる)ことのできる場所(ばしょ)です。この本(ほん)では、「ジオパーク」のしょうかいだけでなく、地球(ちきゅう)を理解(りかい)するための実験(じけん)をしょうかいしています。

## 「おどる詩 あそぶ詩 きこえる詩」

はせみつこ // 編 飯野和好 // 絵 富山房インターナショナル



“ことば”を味わ(あじ)わうってどんなこと(こと)でしようか？ この本(ほん)は、ことばを意味(いみ)で理解(りかい)するのではなく、音(ね)で「味わ(あじ)わう」詩集(しじゆ)です。声(こゑ)に出(い)して読(よ)むと、楽(たの)しい詩(うた)がいっぱい(いっぱい)です。

## 「旅するウサギ」

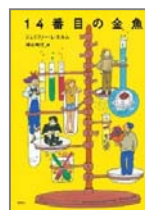
竹下文子 // 作 大庭賢哉 // 絵 小峰書店



旅(たび)をする少年(せうねん)ウサギ(うさぎ)が、旅先(たびさき)での出(い)会(あ)いや風景(ふうけい)をえがいたお話(おはなし)がいくつものつています。くたびれたり、こまったりすることもあるけど、やっぱり、旅(たび)はたのしい。こんどは、どんな旅(たび)になるのでしょうか。

## 「14番目の金魚」

ジェニファー・L・ホルム // 作 横山和江 // 絵 講談社



11歳(さい)のエリーは、不老不死(ふろふし)薬(やく)を開発(かいぱつ)した天才(てんさい)科学者(かがくしゃ)と出(い)会(あ)います。科学者(かがくしゃ)にあこがれ(あこがれ)はじめ(はじめ)ていたエリーでしたが…。「生(い)きること」「死(し)ぬこと」、科学(かがく)の力(ちから)について考(かん)えさせられる1冊(さつ)です。

